

所長の部屋



所長の健康アドバイス

健診結果への対応 (14) 血小板数

[2019年9月]

今回は血小板について説明します。前回説明した通り、血小板は血液中の細胞成分の一種で、止血に関与します。基準値は13.0-34.9万/ μl 程度です。

血小板数が高値の原因としては、感染症の治癒後、血液疾患などが考えられます。逆に低値の原因としては、慢性肝疾患、血液疾患、薬剤の副作用などが多く、高値になるよりも低値になる場合が多いようです。特に血小板数が10万以下となる原因でよくみられるのは、①肝硬変、②免疫性（または特発性）血小板減少性紫斑病（ITP）です。

①の原因としては、以前はB型またはC型肝炎ウイルスによる慢性肝炎が多くみられました。これらの患者さんの多くは、以前から肝障害を指摘されており、健診で初めてこれらが見つかることは稀です。しかも最近の医学の進歩で、これらのウイルス性肝炎は予防により患者は減少しており、発病しても治癒するようになってきました。一方で、アルコールや非アルコール性脂肪肝炎（NASH）からの肝硬変が増えてきました。対策としては、前者には禁酒を、後者にはメタボリック症候群と同様の食事・運動対策をすべきです。

②は原因不明で血小板が減少する疾患です。以前は治療に難渋していましたが、ピロリ菌陽性のITP患者は、これを除菌することにより、多くの場合ITPも軽快することが判明しました。

血小板数も、異常値の場合には医療機関で再検査を受けてください。

乙訓保健所長 時田 和彦

山城南保健所ホームページ

<http://www.pref.kyoto.jp/yamashiro/ho-minami/>

「ひとこと健康アドバイス」バックナンバー

H27.11～H28.6 健康寿命を延ばす（メタボリック症候群についての話）

H28.7～H29.3 がんを防ぐ（食道癌、胃癌、大腸癌の話）

H29.4～H29.6 医者のお話（病院救急室の話）

H29.7～H30.5 健康診断結果への対応（健診で異常値が出たときの話）